

議会だより

やまと

山都

第23号

熊本県山都町議会

2017.2

天までとどけ みんなの夢



主な内容

補正予算	2	「通潤橋」復旧工事開始 ..	10
一般質問	4	工事請負契約	12
条例制定等	9		

12月定例会

平成28年第4回定例会は、12月1日に開会し、12月8日に閉会しました。条例2件、補正予算3件、道路工事請負契約や、通潤橋及び通潤用水の復旧工事請負契約などを審議しました。

平成28年度一般会計補正予算

平成28年度一般会計予算は、16億9,800万円を追加し、総額を220億9,700万円としました。

費目	事業名	金額	説明
衛生費	災害等廃棄物処理事業	23,960万円	災害廃棄物処理委託料 被災家屋解体・撤去委託料
農政費	担い手確保・経営強化支援事業他	4,286万円	担い手確保・経営強化支援 耕作放棄地解消事業 他 (全額:国県補助)
観光施設費	指定管理施設熊本地震助成金	3,500万円	地震による影響額について助成
道路維持費	町道修繕	1,700万円	地震豪雨関連修繕費
体育施設費	グラウンドゴルフ場整備	▲11,951万円	事業中止による減額
現年度農業施設 災害復旧費	土地改良連合会委託料	3,140万円	農地災害査定業務委託 (2名/6ヶ月、3名/5ヶ月)
	農地災害復旧費	134,700万円	農地310件 農業施設300件
文教施設 災害復旧費	重要文化財災害復旧費	300万円	通潤橋仮設見学所整備費

【簡易水道特別会計補正予算】

平成28年度簡易水道特別会計予算は、1億36万8千円を減額し、総額を6億265万1千円としました。

現在、簡易水道4地区(山都中央地区、矢部地区、朝日地区、柏地区)で整備事業を進めているところですが、平成28年度の国庫補助金が、全地区の要望額に対し約6割での交付決定となり、その分を減額するものです。

【水道事業会計補正予算】

平成28年度水道事業会計予算は、1億515万円を追加し、総額を1億4,402万円としました。

科目	既決額	補正額	説明
水道事業収益	8,178万円	0	
資本的収益	3,887万円	10,515万円	主な補正額は、地震による配水施設(山神山配水池)の復旧工事請負費(約9,900万円)です。

補正予算 Q&A

問 (後藤) 耕作放棄地解消事業補助金や、農地中間管理事業機構集積協力金の対象者は。

答 (農林振興課長) 耕作放棄地の解消に取り組まれたり、農地の集積に取り組まれたりする担い手農家、認定農家が対象。

問 (後藤) 指定管理施設に対する熊本地震助成金3千500万円の説明を。

答 (山の都創造課長) 地震の影響により、概算で約7千万円の赤字が見込まれる中、その半額を補助する予定である。単純に赤字補填という意味合いではなく、地震による大変な危機であ

ることを踏まえてのことだ。

問 (吉川) 罹災証明の発行手続き等に臨時職員を配置しているとのことだが、まだ終わっていないのか。

答 (総務課長) 未だに申請が続いており、即時対応するために職員を配置している。

問 (藤原) 今回農業災害の工事負担率を1%とした。一方、開パと牛ヶ瀬のパイプライン災害復旧工事については、97%の補助率で計上してあるが。

答 (農林振興課長) 現在のところ、開パのパイプラインは応急本工事、牛ヶ瀬の水路改修は応急仮

工事となっている。後国の補助率が決定されればそれに従って組合への負担も変化していくと思われる。

問 (藤澤) 本年度、清和地区に建設する食肉加工所の進捗状況は。

答 (農林振興課長) 現在工事発注の準備を進めている。地震の対応等で県の事務作業が遅れ気味だが、補助金の性格上年度内の完成を目指して県の担当者と協議を進めている。

町有財産の譲渡について

(旧清和高原野菜市場)

平成17年に合志市光の森に開店し、長年高原野菜の産直拠点として営業活動が続けてきた「清和高原野菜市場」が平成27年に閉店しました。この施設は指定管理制度により運営されましたが、管理団体が経営破綻したものです。

同施設は、その後の取り扱いが検討されましたが、この度一般競争入札により土地及び建物が売却されました。

物件の住所 合志市幾久富上沖野1656-475
譲渡金額 左の表のとおりです。

譲渡の相手方 熊本市東区保田窪本町4番57号

(株)白川リゾート 代表取締役 藤本祐二氏

種別	面積	金額(円)
建物	239.31㎡	8,290,000
土地	515.67㎡	49,660,000
合計		57,950,000



▲ 開店当時の清和高原野菜市場

来年度の財政見通しは。

答 災害復旧を第一にしながら、財政健全化との両立を目指し、前年度比20%圧縮する方向である。



中村 益行 議員

問 補助金の返上は異例のことだ。町の信用や対面を失ったと思うが。

答 (生涯学習課長) 昨年度までに基本計画と実施設計を行った。公共施設整備基金を活用し、日本スポーツ振興センターからの補助金を得て、本年度着工の予定だったが、議会で否決された。しかし、この事業は町民の要望も強く、早期の整備が必要だと考えている。

問 補助金の返上は異例のことだ。町の信用や対面を失ったと思うが。

答 (総務課長) 今回の地震と豪雨災害に限った特例として、測量設計負担金は、本来の2%の負担率をゼロに、また工事負担金についても1%の負担率とした。町の財源負担も、国の補助率が決まれば軽減されると考えている。

問 災害復旧に取り崩した財政調整基金(町の貯金)の残高は。

答 (総務課長) 27年度末残高が12億8,600万円。

問 通潤山荘復旧工事が随意契約であることの説明を。

答 (山の都創造課長) 国民宿舎の早期復旧のためには、一刻も早い工事の着手が必要だった。一般競争入札に比較して工期が短く、しかも安価であ

問 来年度財政の見通しは。

答 (総務課長) 災害復旧を第一に、将来の財政健全化を両立させるため、前年度当初予算から20%圧縮していく方向である。

問 農業災害の負担金について。

答 (総務課長) 今回の地震と豪雨災害に限った特例として、測量設計負担金は、本来の2%の負担率をゼロに、また工事負担金についても1%の負担率とした。町の財源負担も、国の補助率が決まれば軽減されると考えている。

問 通潤橋復旧工事はいつ終わるのか。

答 (生涯学習課長) 通潤橋を国の重要文化財として保存するに当たって特殊な工事を要する。通水を補完するヒューム管の復旧は、田植えに間に合うようにする。通潤橋の本体工事は、29年度4月から着工、31年3月の竣工を予定としている。



▲工事中の通潤山荘



稲葉 富人 議員

今回の災害対応の総括は。

答 記憶が風化しないうちに取りまとめ、今後の防災計画にしっかり反映させる。

問 総合戦略に滞りはないか。

答 (企画政策課長) 部分的に災害復旧の影響を受けているが、28年度の主な新規事業に関しては、グラウンドゴルフ場建設計画を除き順調である。

問 災害復旧の見通しについて、各課から報告を。

答 (山の都創造課長) 観光施設11カ所の被害総額は1億7千万円。今年度中には工事完了の予定だ。

答 (学校教育課長) 地震から豪雨災害とすべての学校施設

に影響があった。工事期間中の事故防止を最優先に年度内に完成の予定。

答 (生涯学習課長) 関係施設のうち、中央、下矢部、中島南部の各体育館は未完了。

答 (農林振興課長) 農業災害は1,800件の申請があり、地震災害については査定を完了。現在は豪雨災害に関する査定業務を継続中である。

答 (建設課長) 公共土木災害は534件、70%の査定が完了した。年内に発注し、早急に完了したい。

答 (環境水道課長) 山神山配水池の復旧は、来年8月の完了を目指している。

問 支援金や義援金、また復興基金の状況について説明を。

答 (健康福祉課長)

支援金や義援金は被災者の申請制度となっており、ほとんどを8月までに配分した。

答 (企画政策課長) 復興基金は、国が決めた523億2千万円の一部26億円を県が取り崩し10のプランを示された。詳細は12月県議会の決定後となる。

問 町財政の今後の見通しは。

答 (総務課長) 災害関連補正額100億円のうち、13億3千万円が町の一般財源による負担である。12月補正後の町債(町の借金)は昨年度の約5倍の27億5,400万円である。次年度は厳しい財政運営となるが、更なる復旧復興を第一に当たっていく。

問 今回の災害対応の総括はいつするのか。

答 (総務課長) 避難所運営や自主防災組織との連携、初動体制の見直し等、今回の体験を風化させないうちに、住民アンケートを行い、専門委員による検討会議を設けて、今後の防災計画にしっかり反映させる。



防災グッズの点検と確認を!



防災訓練



「災害への備えは、日頃の心構えから!」

文化交流拠点施設の運営の方向性は。

答 観光協会や商工会等が共同体となった運営母体に対し、町が委託することになる。



後藤 壽廣 議員

問 40万円以下の小規模災害への支援策と、制度の周知は。

答 (農林振興課長) 小規模災害農地へは、日本型直接支払制度の利用を促している。これも国の交付事業なので最大限活用していくよう、区長会や組合の代表者へ説明をしている。

問 災害復旧関連の仕事をしている職員の勤務態勢、健康状態への配慮は。

答 (農林振興課長) 農林振興課の査定業務はピークを越えたので、職員には早目の帰宅と週末は必

ず休みを取るよう指示している。また事務処理に関しては各課横断的な応援体制も考えている。

問 休眠状態の柏老人センターは、菅尾の久保住宅のような高齢者共同住宅に転用できないか。

答 (健康福祉課長) 菅尾にある大久保住宅は食事付きで、開所以来満室の状態。柏老人福祉センターは、共同住宅にするには食堂や居室の改修など予算が伴うので十分な協議が必要である。今後ニーズ調査をしながら、本年度中に今後の方針を出したい。

問 文化交流拠点施設について。運営の方向性は。

答 (山の都創造課長) 実施主体となる3

団体(商工会・観光協会・中心市街地活性化協議会)が再三協議を重ねている。最終的には、観光協会や商工会が共同体となった母体に対し、町が委託することになる。将来的に営利目的の活用となれば指定管理制度の導入も必要だろう。いずれにしても、町民が活用する施設だと考えている。

問 3月の当初予算で決まった造り物小屋だが、仲町上組の小屋の現状は。

答 (山の都創造課長) 3月当初予算が通過した後すぐに仲町上組と設計協議に入った。地震の影響で遅れが出たが今年度中の完成予定だ。



▲完成間近の文化交流拠点施設と下市連合造り物小屋



赤星喜十郎 議員

国道から役場、商店街へのアクセス道が狭く危険だ。改修の予定は。

答 予算規模も大きくなる。町全体の機運の盛り上がりが必要だ。

問 来年度の予算編成についての基本方針は。
答 (町長) 災害復旧を最大限に進める。基本的には町の最上位計画である総合計画を進めていくことを指示した。

問 普通交付税も縮減されてきた。今後の行革の推進は。
答 (総務課長) 財政状況が厳しい中で、行革の意識を職員全体で共有することが大切だ。事務事業の必要性、優先順位、簡素化などの見直しを推進する。

問 日之影町では、卒業後町に戻る生徒に対し奨学金の返還を免除するという政策があると聞いたが。
答 (学校教育課長) 画期的な取り組みだと思っている。同様の取り組みを調査しながら本町でも検討していく。

問 通潤橋の修復工事と義援金の現状について。
答 (生涯学習課長) 国指定重要文化財である通潤橋の価値を損なわないような工事を心がけていく。また義援金は163件、約630万円が集まった。

問 文化交流拠点施設の運用は。
答 (町長) 運用に関しては、観光協会を中心に調整させる。

問 218号線から役場、商店街へのアクセス道が狭く危険である。改修の予定は。
答 (町長) 予算規模も大きくなるので、町が予想されるので、町全体からの機運が盛り上がる必要がある。

問 若者の起業支援策は。
答 (山の都創造課長) 光通信の整備も始まり、サテライトオフィスの構想も可能性が出てきた。空き店舗の改修補助を行っているが、もっと範囲を拡充して進めていきたい。

問 山神山配水池の現状と見通しについて。
答 (環境水道課長) 復旧工事に関する査定も終わった。来年9月の竣工を予定している。周辺住民に

し近日中に説明会を開く予定である。

問 上寺第一水源地一帯も、洪水の被害が常態化している。河川改修の方策は。
答 (町長) 県に対する要望は常にやっているが、抜本的改修を県や地元と一体となつて進めたい。

▲役場から見たS字カーブ。国道から新町へと下る



▲役場から見たS字カーブ。国道から新町へと下る

崩れた棚田を耕作しやすい形状に整地できないのか。

答 国の制度は原形復旧が基本だが、原形をとどめない災害箇所については、改良復旧も可能だ。



吉川 美加 議員

問 公募受付期間中に、ある特定の名称を強要するようなハガキが出された。人権教育を標榜する本町で言論の自由を阻害するような行動が起きることをどう捉えるか。

問 統合保育園の名称検討のスケジュールについて。
答 (健康福祉課長) 公募総数は303通、88作品の応募があった。選考委員会で10作品を選び、今後検討する。最終作品を町長に報告し、議会を経て周知していく。



▲棚田の崩壊現場調査(白糸)



▲崩れ落ちた棚田の法面(白糸)

答 (町長) いろいろな意見があることは承知しているが、客観的な判断が大切だと思っている。

問 小規模農業災害について、県が発表した復興予算の使途についての説明を。

答 (農林振興課長) 40万円以下の農業災害の復旧事業費の1/2補助をするという内容である。予定額は3億5,000万円を計上した。

問 土砂が入り、形状が変わった棚田を、現状ではなく発展的に整地することは可能か。

答 (町長) 原形をとどめない箇所については改良復旧も進めて良いということになっていく。制約はあるが、国の補助制度を有効に利用していきたい。

問 棚田の復興について、都会の力を呼び込む必要があると考える。ボランティアを受け入れる上で宿泊所の問題があるが、

現在の町内宿泊施設の利用状況は。

答 (山の都創造課長) 町内施設は業者や技術者の利用により、稼働率は上がっているが、施設によって偏りがある。正確な情報提供を心がけたい。

問 町内の遊休施設の活用として、ボランティア活動受け入れの拠点となり得ないか。

答 (総務課長) 廃校施設等は、目的外への転用に当たって国県への協議が必要で

ある。

Q コミュニティバスの契約更新の年だが、高齢者や児童の移動手段としてもっと利便性を高める工夫はできないのか。

答 (企画政策課長) より良い住民サービスとなるよう、福祉面の支援も考えながら、次年度以降、検討委員会で基礎調査しながら、第3次地域公共交通のあり方をまとめた。

山都町一般職の職員の給与に関する

条例の一部改正

「医師研究手当及び診療手当」に、「災害派遣手当、武力攻撃災害等派遣手当、新型インフルエンザ等緊急事態派遣手当及び医師研究派遣手当」を加えました。

本町の災害応援職員の派遣要請に対し、災害応援職員として新潟県南魚沼市から職員が本町に派遣されることとなり、その職員や南魚沼市に対し負担金を支払う必要があるため、本条例が一部改正されたものです。

平成28年豪雨災害による被災者に対する

町民税等の減免に関する条例

平成28年豪雨災害による被災者の生活再建支援に寄与することを目的として、町税及び国民健康保険税の減免に関する特例措置を実施するものです。

対象期間 平成28年6月6日から7月15日の間に

豪雨災害を受けた方

対象者 この間の被災で住宅が、全壊、大規模半壊、

半壊と判定された方

平成28年発生農地等災害復旧に係る

分担金の徴収の特例に関する条例

この条例は、平成28年熊本地震による災害及び平成28年6月6日から7月15日までの豪雨による災害が複合的なものであり、本町にとって未曾有の激甚な災害であることを鑑み、これらの災害に係る農地、農業用施設等の災害復旧事業について、受益者から徴収する分担金の特例を定めました。

査定設計委託に伴う受益者負担金 **ゼロ**

平成28年発生農地等災害復旧工事のうち査定設計委託料の施行に伴う分担金は、徴収しないものとする。

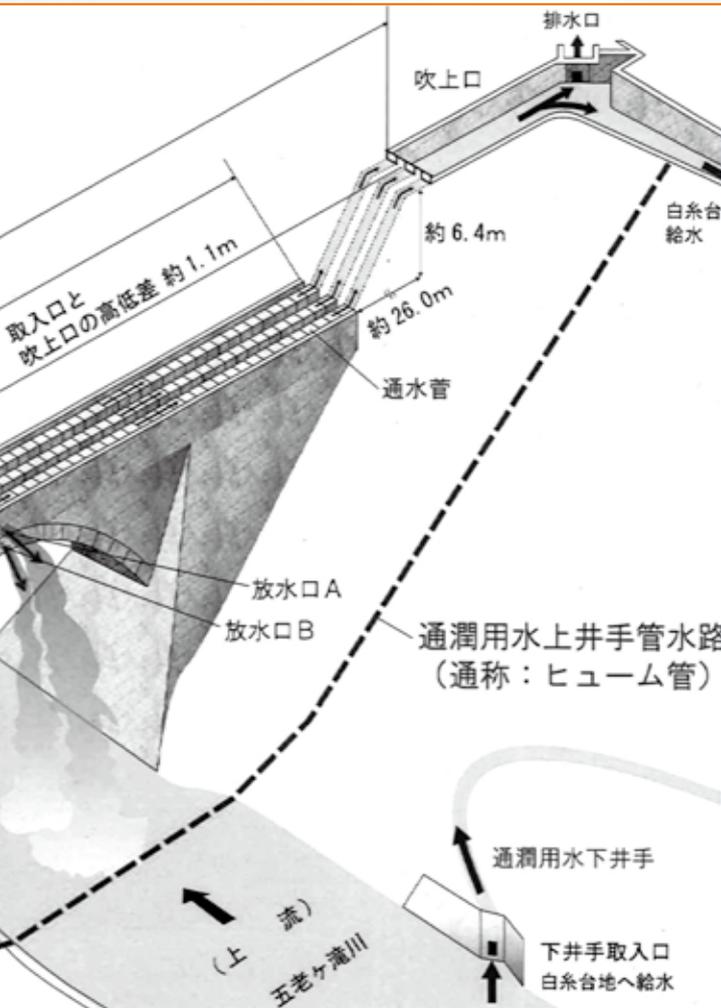
災害復旧事業に伴う受益者負担金 **1%**

平成28年発生農地等災害復旧事業（査定設計事業を除く）の施行に伴う分担金の額は、次の受益者負担率を乗じた額とする。

- (一) 農地等災害復旧事業 100分の1
- (二) 農地用施設災害復旧事業 100分の1

「通潤橋」 事復旧工事開始!!

「一日も早い
復旧を
望みます。」



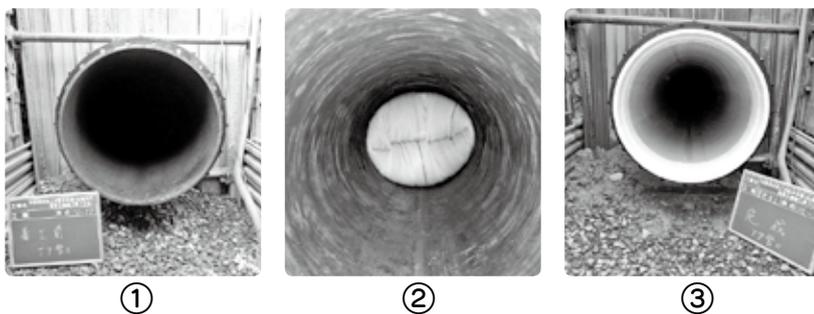
【工事名】
通潤橋用水上井手管水路部災害復旧工事

【請負業者】
(株)環境開発 熊本営業所

【契約金額】
1億44万円

※特殊技術工事の必要性から随意契約となった。

【工事概要】
インシュチュフォーム工法により、通水管の補完的役割を果たす第二送水管(通称ヒューム管)の管更生工事を適用する。インシュチュフォーム協会に属する業者は、九州管内では10数社に限られ、このうち本町へ指名願いが提出されているのは1社のみである。



この工法により、管の継ぎ目等のロスがなく流水能力の向上が見込まれる。

- ① 傷んだヒューム管の入り口
- ② 管の内側に圧着するライナーを反転挿入する
- ③ ライナーに含まれた熱硬化樹脂を温め、硬化圧着して完成。

※上記写真は、施工例 (株)環境開発提供

インシュチュフォーム工法
当工法は、海底に埋設されるガス等のパイプラインや都市部の上下水道管の管更生に用いられる工法である。
掘削を伴わずに管内に熱硬化性の樹脂を含浸させたライナーを水圧で挿入し、内部より管更生を行う。本町はもとより、県内でも事例がない特殊工法である。
この工法により、管の継ぎ目等のロスがなく流水能力の向上が見込まれる。



▲本体表土に出来た亀裂

【工事名】

重要文化財「通潤橋」保存修理工事

【請負業者】

(株)尾上建設 ※指名競争入札

【契約金額】

1億1,599万2千円

【工期】

約24ヶ月の工事期間を見込み、平成31年3月31日完成を目指す。途中専門委員会の審議による工事休止期間も見込む。

【工事概要】

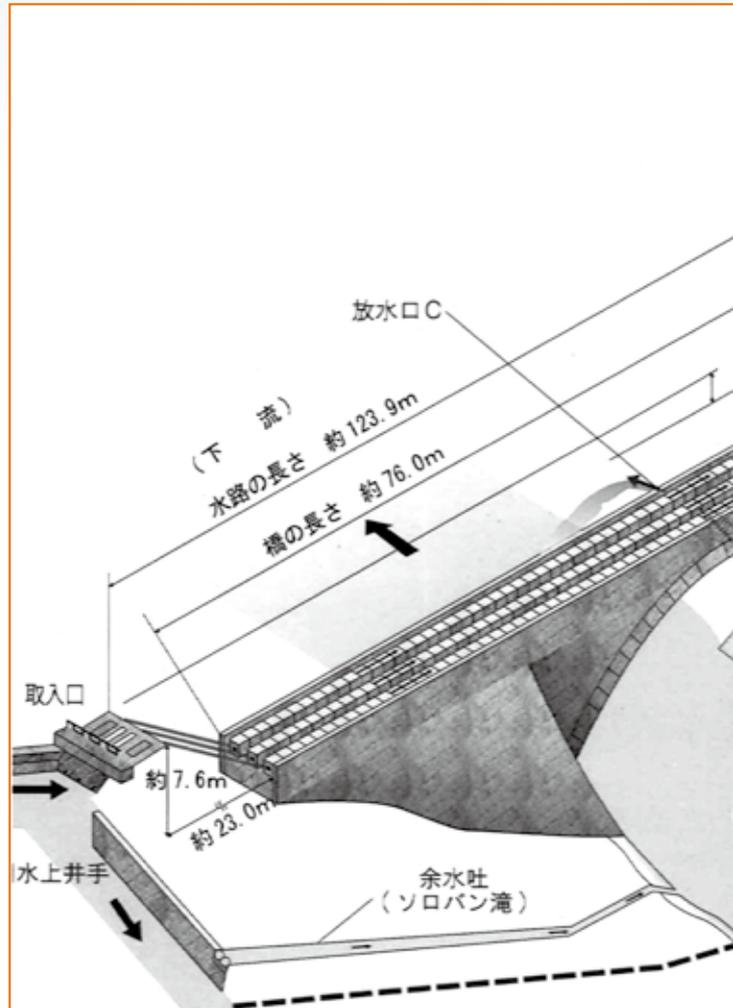
- ① 通水管部被覆土の掘削・埋め戻し
- ② 縁石積み据え戻し
- ③ 通水管の目地漆喰の製作・詰替え
- ④ 取入口・吹上口の目地材の製作・補修

【Q&A】

問（中村） 石管のクッション材に使用している松材に損傷があった場合、代わりの松材の確保は大丈夫なのか。

答（町長） 実際に掘削しなければわからない状態である。石管も含めて松材が必要か調べる。

重要文化財
本体・ヒューム管工



通潤用水上井手管水路とは

昭和35年に通潤橋が国の重要文化財に指定される前、昭和30年頃に県営事業で設置された内径800ミリ、延長150メートルの農業用水路です。農業用水を白糸台地へ送水するコンクリート管であり、通潤用水上井手を通じて白糸台地へ送られる用水の大部分はこの管を利用しています。通潤橋の維持を補完しながら、白糸台地の農業を支えています。

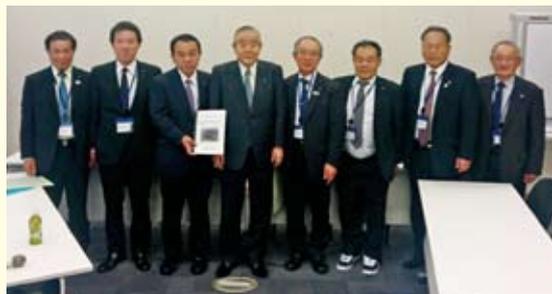
本体保存修理工事の間、白糸台地へ送水できる唯一のかんがい施設です。

矢部阿蘇公園線整備促進 山都町議会・南阿蘇村議会合同要望活動

平成28年12月5日、矢部阿蘇公園線の未供用区間の早期完成を目指し、山都町議会と南阿蘇村議会の代表が上京し合同で要望活動を行いました。平成28年熊本地震でダメージを受けた幹線道路により、地域社会は多大な困難を強いられました。今後は強固な一本の道路ではなく、相互に補完する役目を担う道路網の整備が必要であり、近い将来見込まれる大災害時の地域住民の避難経路や救援物資の運搬にも役に立つものです。「命の道」としての九州中央道の整備も進む中、広域的防災道路の早期整備を強く訴え、県選出国會議員と国交省道路局に対し、要望書を手渡しました。



▲国交省道路局企画課長へ要望書を手渡す両議長



▲園田、坂本両代議士へ要望書を手渡す議員団

工事請負契約

【工事名】 大川大矢線 道路改良工事(契約変更)
 【工事場所】 山都町 鶴ヶ田地内 【工事業者】 (有)清和建設
 【契約金額】 9,612万円 【総額】 1億549万8,730円
 ※本線を掘削し新道に埋める計画だったが、土量不足のための増額契約

【工事名】 白小野鶴越線道路災害復旧工事
 【工事場所】 山都町 津留地内 【工事業者】 (株)坂本建設
 【契約金額】 9,860万4,000円
 ※熊本地震による災害復旧延長工事

次の定例会は、
3月の予定です。
 傍聴にお越しく下さい。

※詳しい日程等については、議会事務局までお問い合わせください。
 (☎72-1289)



編集後記

厳寒期を迎えた2月。今月は町の新しいリーダーを決める町長選挙が行われる。町の未来を託す大事な選挙だ。住みたい町になるためにも若い人たちの投票率が上がるように期待したい。新体制になっても、町の未来像を一緒に語り合える執行部と議会の関係性であることを望んでいる。

(吉川 美加)

発行責任者	議長 中村一喜男
議会広報委員会	委員長 吉川 美加
	副委員長 後藤 壽廣
	委員 江藤 強
	委員 飯星 幹治

